

## マリアン・ングアビ大統領

おやさと研究所教授  
森 洋明 Yomei Mori

フランスには「シャルル・ド・ゴール空港」や「ポンピドゥセンター」など人名を冠した施設がある。アフリカやアジアなどの少数民族文化が生み出した作品を所蔵するケ・ブランリ美術館にも「ジャック・シラク」の名前が加えられた。コンゴにも同じように、「サヴォルニャン・ド・ブラザ高校」や2代大統領に因んだ「マサンバ＝デバ・スタジアム」、その後を継ぐ大統領の名前を冠した「マリアン・ングアビ大学」がある。

1968年9月4日、マサンバ＝デバ (Massamba-Débat) 2代大統領が辞任した。その後の3カ月は軍の大尉が暫定的に政権を担ったが、それは3代大統領となるマリアン・ングアビ (Marien Ngouabi) への橋渡しであった。停止されていた大統領の権限が復活し、ングアビは1968年12月31日、正式に3代大統領に就任する。奇しくもその日は彼の30歳を祝う誕生日でもあった。独立以来南部出身の大統領が続いたが、彼の出自は北部のキュベット (Cuvette) であり、またこれまでの大統領とは異なり軍の出身であった。

当時のコンゴの人口は約100万人。主な産業はマサンバ＝デバの時代に発展した農業で、とくにコーヒーとカカオだった。また繊維や材木、鉱物、セメントなども輸出産品として期待されていた。植民地時代多くの犠牲を払い負の遺産でもあったコンゴ＝オセアン鉄道は、内陸から沿岸部への物資輸送の重要な手段として活用されていた。公人による汚職は取り締まりの強化で少なくなっていたようだ。初等教育の就学率は95%という高い数値を誇っていた。こうした点においてマサンバ＝デバは、その強権的な手法によって国民の不満をかって政権から失脚したが、独立後の国作りとしてはそれなりに成果を上げたとも言えるかもしれない。

独立後の政権の安定を妨げる原因の一つに、国内に優秀な人材が不足していたことが指摘できるのではないだろうか。植民地時代には、労働者として最低限必要な「読み書き・計算」などの初等教育には力が注がれたが、一部のエリートの養成以外、高等教育にはあまり関心は払われてこなかった。こうしたことが、独立後の国作りにおいて混乱を招く遠因となったとも考えられる。植民地政策の影響は、独立後の社会に深く残っていたのである。

マリアン・ングアビは、1938年に生まれた。初等教育を終えた後、15歳から軍の学校に進み、卒業後は当時フランス領であった中央アフリカで従軍する。また1958年から60年までは、カメルーンで狙撃隊に参加している。その間、順調に軍において階級を上げていき、コンゴが独立した1960年には、フランスで将校としての教育を受けるようになる。そのときの同胞には、後に4代大統領となるジョアキム・ヨンビ＝オパンゴ (Joachim Yhombi-Opango) がいた。1962年、コンゴに戻った彼は少尉となり、ポワント・ノワールに歩兵隊の指揮官補佐という立場に就く。中尉に昇格した彼は、1965年ブラザヴィルに戻り、さらに大尉となってパラシュート隊の司令官となる。そして1968年10月1日、彼は軍の司令官にまで上り詰める。また彼は、当時唯一の政党であった「Le Mouvement National de la Révolution (革命国家運動)」に軍の代表とし

て参加していた。

コンゴは2代大統領から社会主義に路線を舵を切ったが、ングアビ大統領はそれまでの中国寄りからソ連に做った体制に変更していった。企業の国営化を加速させ、大統領就任翌年の1969年12月には「Le Parti Congolais du Travail (コンゴ労働党)」を結成し、単一政党制を進めていく。同時に新たに憲法を制定し、国の名前をそれまでの「コンゴ共和国」(République du Congo) から「コンゴ人民共和国」(République populaire du Congo) に変更、国旗もそれまでの三色旗(緑・黄・赤)から、赤色を基調とし労働のシンボルとして農具や工具が描かれたものに変えた。さらに国歌に関しては、旧宗主国との繋がりを重視したユールー初代大統領が失脚する原因となった出来事の名前に由来した「Les Trois Glorieuses (3日間の栄光)」に変更された。

しかし、国が政治的にマルクス・レーニン主義を押し出していく一方で、経済的には西側との関係が切れない状況が続いていた。とりわけ、この頃に大西洋の沖合に発見された油田の開発に関しては、フランスのエルフ・アキテーヌ社やイタリアのアジップ社がその開発を担うようになっていた。

さらに、政治的には不安定な状況が続いた。軍の組織が再編されると独裁的な裁判所が設置され、クーデターの疑いで大統領の政敵に終身労働や死刑判決が下された。例えば、マサンバ＝デバやその配下にいたベルナル・コレラ (Bernard Kolélas) も大統領退任後に逮捕され、その後釈放されたのだが、クーデターの疑いで再度逮捕されたり、証拠不十分で釈放されたりという状況にあった。また、1969年6月にはクーデターの疑いで17人が逮捕されるなど、国政は安定しなかった。その後もクーデター未遂事件は相次ぎ、なかにはCIAの関与や、当時周辺諸国で唯一西側に汲みしていたザイル共和国のモブツ大統領の裏工作が疑われるものもあったようだ。殺害されたクーデター首謀者の遺体が放置されたり、街中に引き回されたりしたこともあったという。こうした政情不安が続くなか、1977年3月、遂にングアビ大統領自身が暗殺される事件が起きるのだった。

このングアビ大統領の後継を自認し国をリードしていくのが、ドゥニ・サス＝ングソ (Denis Sasou-Nguesso) 現コンゴ共和国大統領である。昨今、ブラザヴィルの北方キンテレ (Kintélé) 地区に、新たに大学が設立されようとしている。マリアン・ングアビ大学をはるかにしのぐ広大な敷地に大きな校舎がいくつも建設されているが、まだ開校には至っていない。ただ、名前だけはすでに「サス＝ングソ大学」と決まっている。



キンテレ地区に建設途中のサス＝ングソ大学 (2018年)